

所信表明

二〇二六年度自治会連合会執行副委員長選挙所信表明

自治会連合会執行副委員長区分の立候補者は一名です（定数若干名）

自治会連合会執行副委員長候補

法学部 新四回生

木村 陸生（きむら りくお）

この度、二〇二六年度自治会連合会執行副委員長に立候補いたしました、法学部三回生の木村陸生と申します。

本所信表明では、私がこれまで学友会活動で経験したことから、来年度における自治会連合会執行副委員長としての活動の方向性について述べさせていただきます。

これまでの経験

私は一回生春に法学部自治会執行委員会に参加し、同年六月より執行委員会会計を、翌年六月からは執行委員会委員長を務めました。

当時の法学部自治会執行委員会は構成員が少なく、五者懇談会の実施すら困難な状況にありました。自治会の主要な活動について十分な知識を持たないまま学部との議論に臨んだ経験は非常に苦しいものでしたが、その過程で外部からの支援の重要性や継続的な引継ぎの大切さ、そして学生自治活動の難しさを学ぶことができました。

また、二回生春からは新歓実行委員会に所属し、KIC副実行委員長および実行委員長

をそれぞれ一期ずつ経験しました。多数の企画や多額の予算を管理しながら、多くの団体と対話を重ねる中で、複数の集団と同時に活動を進めるための視野の広さや管理能力を身に付けることができたと考えています。

さらに、多額の学友会費を運用する立場として、中央事務局財務部に入部し、学友会費に関する知見を深めてまいりました。

その他の活動として、中央常任委員会の依頼を受け、「立命館大学学友会個人情報取り扱いに関する規程」の改正案を起草したほか、学友会内における複数の規約改正に携わってきました。また、学術本部再建委員会の一員として、課外三本部の一つである学術本部の再建にも関与した経験を有しています。

活動の方向性

①自治会連合会執行委員長の補佐

立命館大学学友会自治会連合会規約が定める通り、執行副委員長の重要な職務の一つが執行委員長長の補佐であると考えています。

私自身、自治会での経験は執行委員会会計および執行委員会委員長がそれぞれ一期ずつであり、五者懇談会の経験も三回にとどまります。この点において、自治会での活動経験が十分であるとは必ずしも言えないと認識しています。また、有権者の皆様の中にも、私の経験値の不足を懸念される方がいらっしゃることも承知しています。

しかしながら、執行副委員長という役職において、私はそうした経験不足による不利

益を大きく上回る利益を自治会連合会にもたらすことができると考えています。

第一に、自治会以外での経験の幅広さです。これまで述べてきたように、私は学友会内の多様な部署で活動してきました。中央事務局財務部での学友会費運用の経験や、規約改正に携わった経験は、一見自治会活動とは直接関係がないように見えるかもしれませんが、自治会連合会を牽引する自治会連合会執行委員長を補佐する上で必ず生かされるものだと考えています。

第二に、対話経験の多さです。全学行事においては中央事務局特別事業部の担当者や課外自主活動団体と、中央事務局財務部では予算ヒアリング等を通じて学友会費の充当対象団体と対話を重ねてきました。これらの場面で常に重視してきたのは、「やりたいことを引き出し、必要十分な支援を行うこと」です。対象団体の活動に過度に入入るのではなく、あくまで支援者として適切な距離感を保ちながら支援を行ってききました。

この姿勢は、独立した自治組織である各学部自治会を支援する自治会連合会の役員として、今後も大切にしていきたいと考えています。

このような対話への考え方は自治会連合会執行副委員長として組織を牽引する執行委員長を補佐する際にも生かされるものであると考えています。

また、自治会連合会執行副委員長に就任した際には、かつて財務部員として学友会費について学んだ際と同様に、改めて自治会に関する知見を広げ、主体的に学び続けながら活動していく所存です。

②学部自治会支援への尽力

各学部自治会が行う活動の中でも、五者懇談会とそれに付随する学生大会やアンケートの実施は、特に重要な取り組みであると考えています。

一方で、引継ぎの不十分さをはじめとする様々な問題を要因として、これらの活動を円滑に実施することが困難な学部自治会が存在することも事実であると認識しています。加えて、デザイン・アート学部自治会の設立に関する議論も進行しており、来年度は「自治活動の基礎を整える」ことが自治会連合会の大きな役割の一つになると考えています。

私は、法学部自治会が実施できていなかった、五者懇談会を再び実現するまでの活動を当事者として経験し、さらに学術本部再建委員会の一員として団体の基礎を整える活動に携わってきました。これらの経験から得た知見や手法を生かし、学部自治会支援に貢献できると考えています。

また、新歓実行委員会において複数の企画を同時並行で監督した経験は、複数学部自治会を同時に支援する必要がある自治会連合会の活動においても生かすことができると考えています。

以上が、私が自治会連合会執行副委員長に立候補するにあたっての所信表明です。選出していただいた際には、本所信表明に基づき、誠実に職務を遂行してまいります。何卒よろしくお願いいたします。

投開票日 二〇二六年二月一七日

立命館大学学友会中央選挙管理委員会